

令和8年1月17日

大妻中野中学校・高等学校 ユネスコスクール(2022年度正式加盟) 2025年振り返りと2026年活動予定

取り組んでいる分野：生物多様性、減災・防災、気候変動、環境、文化多様性、世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等、国際理解、平和、ジェンダー平等、持続可能な生産と消費、食育、貧困、グローバル・シチズンシップ教育(GCED)

本校は、「学芸を修めて人類のために」を建学の精神とし、「地球市民として、Society5.0における持続的なより良い社会の創造と自らの幸せを紡ぐことのできる人材の育成を目指す」というスクールミッションを掲げている。このミッションは、ユネスコスクールが重点的に取り組む教育の3つ柱*と重なっており、このスクールミッションを具体的なカリキュラム、各種のプログラム、学校行事で取り組みに落とし込み、取り組んでいる。

※【ユネスコスクールが重点的に取り組む 3 つの柱】

- ① 地球市民および平和と非暴力の文化
- ② 持続可能な開発および持続可能なライフスタイル
- ③ 異文化学習および文化の多様性と文化遺産の尊重

2025年度は、本校のユネスコスクールとしての活動と文部科学省事業 WWL(ワールドワイドラーニング)コンソーシアム構築拠点校*としてのカリキュラム、プログラム開発、実践を重ねながら取り組み、国内外の教育機関、企業との連携が一層進んでいる。

※大妻中野中学校・高等学校 WWL 拠点校としての構想名

「繋ぐ・行動する – “Beyond School” アプローチによる協働型の地球市民教育“であり、この構想はそのまま本校のユネスコスクールとして取り組みになっている。

全校生徒対象として、中1「自己探究」、中2「環境探究」、中3「歴史・平和探究」を、探究学習と宿泊研修などで実施した。高校では、自ら課題を発見し、リサーチし、発表する「総合的な探究の時間」を中心に取り組み、各種発表会、コンテスト、模擬国連会議など、学校を超えたプログラム(Beyond School アプローチ)にチャレンジした。

また、本校では、プロジェクト型学習と複言語教育(英語、フランス語)、サービスラーニングなどを核とした独自のリベラルアーツカリキュラムを展開するグローバルリーダーズコース(GLC)を設置しており、独自の学校設定教科 GIS(グローバルシニーケイ)などで、世界の課題を英語で学ぶクロスカリキュラムを実施し、文部科学省が共催する全国高校生フォーラムを主とした目標として取り組んでいる。さらに学年横断型の生徒主導プロジェクト課外学習として、「フロンティア・プロジェクト・チーム」、「S-TEAM(IT 活用探究学習プロジェクト)」などのプログラムに取り組み、先進的な地球市民教育のカリキュラムモデル開発を継続的に行っている。

2025年度の本校のユネスコスクールとしての取り組み、活動の主な実践を以下に記す。 2025年度の活動では、「ネットワーク」、「連携」、「協働」をキーワードとして、これまで以上に学校を超えた Beyond School アプローチで、「本校の取り組みで修得した学芸を、地域や地球規模の具体的な課題にあてはめ、創造的に考え行動する地球市民的視野を持ったリーダーの育成」に向けて優れた実践となつた。

① 第6回ユネスコスクール関東ブロック大会（2025年8月7日、成蹊大学）での取り組み

成蹊大学で開催された第6回ユネスコスクール関東ブロック大会に参加し、玉川大学、都立山崎高等学校（ユネスコスクール）の皆さんと一緒に、「SDGs に主体的に向き合える地球資金の育成・若者エンパワーメントの新たな挑戦」というテーマのもと、事前準備学習と進め、当日は、成蹊大学で、一般参加の皆さんも巻き込んで、ディスカッション、ワークショップを進め、その成果を発表した。

この大会で、本校は、生徒主体の探究プロジェクトチームである「フロンティア・プロジェクト・チーム」が進めてきた「生物多様性や絶滅危惧種に関する課題を探究し、その課題解決を通して、持続可能な社会の構築へ貢献すること」をテーマとして、分科会グループ1を主導した。

また、都立山崎高校の分科会グループ2では、「ポスト SDGs(2030年以降の新しいSDGs)を考える上で、現在の取り組みを振り返る」テーマでの議論、ワークショップを主導し、本校生徒と共にその成果を共有した。

また、この大会では、本校の「地球市民教育」及び「異文化学習、文化の多様性への学び」の実践としてのフランス語授業チームの生徒達が、その成果をポスター発表で発表した。

この大会での取り組みを通じた事後アンケートでは、参加生徒の約9割が「何らかの気づきを得た」と回答した。異校種や大人との討論の中で、課題に対する気づきが多く挙げられ多様な行動の変容が見られた。一方で、行動宣言が抽象的で、比較研究においても指標や根拠が不十分なケースが見られた。今後の展望としては、生徒一人ひとりが持続可能な社会の一員となるように、課題発見と課題解決に対し自分事にとらえ取り組めることをさらに今後の課題としたいと考えている。（以下、公式 HP）

https://www.seikei.ac.jp/gakuen/esd/unesco_2025/

<https://www.otsumanakano.ac.jp/archive/3911/>

② 高大連携によるグローバル課題への深い学びの実践－ユネスコスクールの3つの柱をテーマに

- 順天堂大学と大阪・清教学園中高との WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）連携プログラムを開催

6月に、本校 WWL 協働機関、高大連携提携大学の順天堂大学国際教養学部准教授の白山芳久先生を講師として、連携校の大坂・清教学園中高との協働したプログラムを実施。「グローバル Well Being」について、特にグローバルな課題である医療格差問題を自分事にとらえ、どのような取り組みをしたらよいか、それぞれが考える機会を与え、生徒たち自身の新たな課題設定を促すことができた。

<https://www.otsumanakano.ac.jp/archive/3964/>

- 東京農業大学教授、松林尚志先生と「生物の豊かさを守る！」連携授業を実施

12月に、持続可能な環境教育と生物多様性と野生動物の保護について、昨年から連携している東京農業大学教授の松林尚志先生と連携して、SDGs No.15「陸の豊かさを守ろう」のテーマに取り組んだ。この取り組みは、東京農大が実践するグローバル課題でもある「生物多様性保全」に関わる研究とも重なり、中高生にとって、探究活動を一層、促す機会となった。また、この取り組みは、国際デー「生物多様性の日」の周知活動の一環となっている。

- 法政大学グローバル教養学部との連携授業－多様性と包摂性を活かした新しいビジネスをテーマに実施

6月と 11 月に継続して、本校 WWL 協働機関、高大連携提携大学の法政大学グローバル教養学部と連携し、社会課題の解決に向けて、ビジネスモデルを構築するという視点から様々な学問領域を横断することの重要性を考えた。担当したのは、法政大学 GIS の准教授、Dr. John Melvin 先生。テーマは“Workshop on Niche Tourism”で、特に LGBTQ+ と観光の関係性を、多様性・文化・政治・経済・心理などを総合的に結びつける思考を学んだ。

<https://www.otsumanakano.ac.jp/archive/10198/>

- テンプル大学ジャパン(本校 WWL 協働機関)との連携による特別授業・ジェンダー公平-を実施

テンプル大学ジャパンとの連携、協働をさらに継続、発展させ、昨年度の堀口佐知子先生 Dr. Sachiko Horiguchi のジェンダー公平に関する授業に続き、今年度は、Dr. May-y Shaw 博士を講師に、“Female Leadership”—女性のリーダーシップとは何か、グローバルな視点からジェンダーギャップの現状をデータに基づいて分析し、日本社

会が抱える課題や変革の可能性について、英語によるディスカッションの連携授業を実施した。

<https://www.otsumanakano.ac.jp/archive/10092/>

- ・ 東京電機大学理工学部と連携し、大学での化学分野での研究とその成果の社会貢献を体験

東京電機大学の先生方と連携し、大学での学びや研究の可能性を実感する機会として、高校1年生が7月に東京電機大学理工学部の鳩山キャンパスでの実験授業を受講した。大学での学び方や発展的な研究とのつながりについて、生徒たちは一層の興味を持つことができた。

<https://www.otsumanakano.ac.jp/archive/3935/>

- ・ 大妻女子大学との連携講座 - 6学部の先生による出張授業をシリーズで実施

文学部コミュニケーション文化学科、人間関係学部共生デザイン学科、家政学部食物学科、比較文化学部、データサイエンス学部、社会情報学部の先生方による7つの講座を開講し、のべ130名の中学生・高校生が参加し、大学での深い学びを体験した。

③ 学校間交流プログラム –相互訪問による異文化学習、文化の多様性への学びの実践–

WWL連携校・台湾聖功女子高級中學 Sheng Kung Girls High School、及び マレーシア SMK Putrajaya Presint 16(1)への訪問と交流を行った。2025年5月に、高校2年次の教育旅行プログラムであるグローバルスタディツアーワークショップの台湾コースおよびマレーシアコースでは、直接、現地の学校を本校生徒が訪問し、教育交流を行い、相互の文化を学び合うプログラムを実施した。それぞれの学校の優れた教育実践とともに、その文化を生徒同士が発表したり、ワークショップを行うなどで、主体的、協働的に学びあうことができた。

また、特に、台湾の聖功女子高級中學 Sheng Kung GHSとの交流は、オンラインで協働のプロジェクトが立ち上がり、「海洋の保全」というテーマで、相互の生徒達が、それぞれの研究成果を発表しあうなどの取り組みが継続している。<https://www.otsumanakano.ac.jp/archive/3983/>

④ 1年から短期まで、世界13か国での留学や教育旅行を実施し、参加した生徒の成果を共有

2025年度は以下の国に本校の生徒が留学や教育旅行を行い、(一部、現在も留学中)、それぞれの国、留学先の学校での経験を、帰国後、校内で発表し、異文化学習、地球市民教育の進展に大きな成果があった。特に、1年間、半年間、3ヶ月の留学では、単に語学修得に留まらず、生徒がそれぞれ自ら留学先で取り組む探究活動を計画し、それに沿って、留学を行っている。

留学、教育旅行を行った国は、以下、13か国である。 – カナダ、アメリカ、ニュージーランド、オーストラリア、フランス、ドイツ、アイルランド、イギリス、フィンランド、フィリピン、タイ、マレーシア、台湾。

また、留学生の受け入れでは、日仏高校ネットワークに参加しているフランスの3つの高校からの高校生を本校生徒家庭がホストファミリーになる形で、フランス人高校生3名を受け入れ、それぞれの生活様式や文化の違いについて、学び合った。

なお、留学への取り組みでは、特に、文部科学省が展開する「トビタテ！留学 JAPAN」への積極的なチャレンジを行い、以下の5名の生徒が、ユネスコスクールとしてのテーマに関連した探究課題への取り組みを留学で行うことで、トビタテ！留学 JAPAN の留学として採用された。

カナダ留学	誰もが輝ける！ジェンダーフリーなチアリーディングを目指して
フィンランド留学	フィンランドから学ぶ！ウェルビーイングを育む教育とジェンダー平等
オーストラリア留学	アデレードの逃げない蜂を探究し、生物多様性と持続可能な食料生産に役立てる
ニュージーランド留学	楽しい女子校ライフの起源にせまる – 日本とNZの女子校教育を比較する
ニュージーランド留学	多くの人がスポーツを楽しめる方法を学び、日本スポーツの躍進に貢献する

<https://www.otsumanakano.ac.jp/archive/10341/>

⑤ 文部科学省全国高校生フォーラム2025への取り組みと参加

12月に開催された文部科学省 WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業および SGH の成果を共有する全国高校生フォーラムに、高校2年生のチームが本校を代表して参加した。

本校は「グローバル Well-Being 2030 の実現に貢献するマインドとスキルの育成」をテーマに、学校設定教科 GIS (Global Issue Studies) を設定している。この授業では、生徒たち自身が「問い合わせ立てる」ことを重視し、さらに、調査・分析・提案までを一貫して行う学びをカリキュラムとして体系化することに取り組んでいる。

2025年度の全国フォーラムに出場した本校代表チームは、「フェアトレードにおける日本の課題」をテーマに設定し、国際比較データやフィールドワークを通して、個人の意識に依存しがちな日本の消費行動の背景にある制度・教育・社会構造に着目し、フェアトレードを「特別な選択」から「当たり前の選択」へと転換するための提案を、英語で発信した。

<https://www.otsumanakano.ac.jp/archive/10456/>

⑥ 「多様性の尊重と包摂性の推進」をテーマに、生徒が発表する文科省事業 WWLシンポジウムを開催

11月、文部科学省事業 WWL 拠点校としての学びの成果を広く発信する「WWL シンポジウム “Beyond School” アプローチによる協働型の地球市民教育」を開催し、ユネスコの理念でもある「多様性の尊重と包摂性の推進」をテーマに、国内外の学校や大学との連携を通じて生徒が培ってきた探究の軌跡を共有する場として実施した。このプログラムでは、本校の WWL 指導委員でもある元キューバ大使の渡邊優氏より、多様性と包摂性に関する国際社会の課題と行動の指針についての基調講演があり、その後、留学を経験した生徒による視野の広がりや価値観の変容、トビタテ生としての挑戦、WWL 探究活動の成果、そしてフランスからの留学生によるグループ発表など、多様な背景と学びが共有された。

また、本校の卒業生パネルディスカッションも行われ、中学・高校での挑戦が大学での学びやキャリア形成にどのようにつながっていくのかが語られ、本校のユネスコスクールとしての探究教育の意義があらためて確認される成果をあげた。

<https://www.otsumanakano.ac.jp/archive/3896/>

⑦ 「国連デー」へ周知活動 - ユネスコスクールとして皆で「国連」の意義を考える

生徒主体のプロジェクトを中心に、ユネスコスクールの重要な使命である国際デーの周知に取り組んだ。具体的には、3月の国際女性デー、5月の生物多様性の日、6月の世界難民の日、10月の国連の日、世界都市の日である。その中で特に、今年度は、10月24日の「国連デー」と10月31日の「世界都市デー」を連携させて、「公共」の授業と連携し、取り組みを行った。

特に、生徒の発表では、以下のような言葉で、その取り組みを結んだ。

「国連憲章の前文には、『われら人民は、後の世代を戦争の惨禍から救うために、ここに国際連合を設立する』と記されています。私たち一人ひとりが身近な問題に関心をもち、対話の一歩を踏み出すことも、平和を築くための重要な行動です。世界都市デーの今日、私たちが暮らす東京、そして学校という小さな社会から、「話し合う力」「理解しようとする力」を育み、平和の礎を築いていきましょう。」

<https://www.otsumanakano.ac.jp/archive/9965/>

⑧ 第9回アフリカ開発会議TICAD - Model African Union in Japanへの生徒参加

2025年8月に、横浜で開催された第9回アフリカ開発会議(TICAD 9)での「模擬アフリカ会議 Model African Union in Japan」に本校の生徒が参加。TICAD 9のテーマ「革新的な課題解決の共創、アフリカと共に」の下で、横断的事項として官民連携、若者・女性のエンパワーメント、地域統合・連結性にフォーカスすることについて、本校生徒

はセネガル大使として参加、議論を行った。

本校のフランス語学習と模擬国連への取り組みの成果が融合することで、生徒が新しいチャレンジを始めている成果ともなっている。参加した生徒の言葉を紹介する。

「議論の中では、アフリカの課題を自分のことのように感じられました。現地から来た留学生たちが「自分事」として語る姿に触れ、私自身も「私たちに何ができるのか」を真剣に考えるようになりました。文化交流の場では、音楽やダンスを通じて互いの文化を知り、リスペクトし合うことの大切さを心から実感しました。

今回の経験から得た最大の学びは、課題解決において「相手を理解しようとする心」が何よりも重要だということです。その姿勢があれば、コミュニケーションはより円滑になり、信頼も生まれます。そして私は改めて、英語やフランス語といった言語を学ぶことは、単なる知識の習得ではなく、人々の思いをつなぎ、世界をより良くする力になるのだと強く確信しました。」

<https://www.otsumanakano.ac.jp/archive/9708/>

⑨ 学校間連携、協働、国際機関による相互の学びを共有する取り組みへの参加と成果の普及

- ・ 東京都立山崎高等学校(ユネスコスクール)と協働した第6回ユネスコスクール関東ブロック大会でのワークショップを実施、参加
- ・ 大阪・清教学園中・高等学校(本校 WWL 連携校)と連携した順天堂大学国際教養学部白山先生を招いての特別授業を本校主催で実施
- ・ 渋谷教育学園渋谷中学高等学校（ユネスコスクール）の「学びのオリンピック SOLA 2025」（互いに学び合いを深め共有することで社会課題に対する関心を高め、同じ理念を共有する）に参加
- ・ 立命館宇治中学校・高等学校(WWL 拠点校) 模擬国連大会 「Bridging Inequality(不平等の是正) - SDG1 貧困をなくそう、SDG4 質の高い教育をみんなに、SDG5 ジェンダー平等を実現しよう」に参加
- ・ 立命館宇治中学校・高等学校(WWL 拠点校) 高校生国際会議 Global Youth Forum “SURVIVE!”「世界の課題に取り組み、具体的な成果を生み出すフォーラム」に参加
- ・ 名古屋国際中学校・高等学校(WWL 拠点校)の高校生国際会議 「『情報社会をどう生きていくのか』～オールドメディアとニューメディア、ファクトチェックの必要性～」に参加
- ・ 筑波大学附属坂戸高等学校(ユネスコスクール・WWL 拠点校)との連携による地球環境保護への取り組みを目指した「西オーストラリア国際フィールドワーク」とその協働事前学習に参加
- ・ 駐日欧州連合代表部が実施する教育プログラム「EU Comes to Your School」の実施校として選ばれ、駐日ギリシャ全権大使ニコラオス・アルギロス閣下による EU の意義、仕組み、国際協調の重要性について学ぶ

<https://www.otsumanakano.ac.jp/archive/10165/>

2026度の活動計画

- ・ 2026年度は、ユネスコスクール公式レビューの年度となる。有識者による書面レビュー(助言)、改善計画作成・研修参加などに積極的に取り組み、ネットワーク強化と ESD の一層の推進を目指す。
- ・ ユネスコスクールの重点課題を意識した探究的な教科学習として教育課程に位置付けている中1国語探究、中2社会探究、中3数学探究、高校「探究・グローバルリージュースタディーズ(GIS)」を、これまでの成果を活かし継続、発展させる。
- ・ 中3での教育旅行(沖縄 平和・環境学習旅行)、高2でのグローバルスタディツアー(マレーシア、台湾、京都・奈良への教育旅行)を通して、地球市民、平和、持続可能な開発、異文化、文化多様性、文化遺産に関する探究を体験から深める。
- ・ 海外連携校との協働によるグローバル課題についての探究学習をよりいっそう進めていく。台湾の Sheng Kung Girls High School とは海洋問題についてプロジェクトが具体的に進んでおり、その成果をさらに共有し、双方の学校の生徒の学びを深める。また、他の海外連携校とも一緒に取り組む。
- ・ 本校グローバルリーダーズコース設定教科「Global Issue Study」による、英語やフランス語を用いた課題探究活動を継続して、実施し、全国高校生フォーラムへのチャレンジと貢献をさらに進める。
- ・ 高大連携を一層進め、大学の専門的な学術リソースを活用し、より深い学び、リサーチを行い、大学生とも連携した生徒主体で双方向性のある連携授業や各種プログラムに取り組む。
- ・ 地球市民教育、SDGs探究、異文化学習、文化多様性、文化遺産などに関する探究成果発表の場としての「Global Arts Festival – 文化祭」、「WWL 成果発表 Presentation Contest」を継続して実施する。
- ・ カナダ、アメリカ、ニュージーランド、オーストラリア、フランス、ドイツ、アイルランド、イギリス等への短期から1年留学プログラムにより、地球市民教育、異文化学習を促進する。
- ・ 地球市民リーダーの育成を目標とした学年横断型探究課外授業「フロンティア・プロジェクト・チーム」、STEAM 教育を先進的に行う課外授業「S-TEAM」を継続実施する。千葉商科大学、玉川大学、成蹊大学、東海大学、その他ユネスコスクールと一層連携した取り組みを行う。なお、第6回ユネスコスクール関東ブロック大会(千葉商科大学、成蹊大学、玉川大学、東海大学、創価大学などの共催により実施予定)へ積極的に参加し、本校による生徒発表とその成果を校内外への一層の普及に努める。

以上

ユネスコスクール公式 HPへの掲載版

2025年度活動報告 1200 字程度

本校は「学芸を修めて人類のために」を建学の精神とし、「地球市民として、Society5.0における持続的なより良い社会の創造と自らの幸せを紡ぐことのできる人材の育成」をスクールミッションとして掲げている。このミッションは、ユネスコスクールが重点的に取り組む①地球市民および平和と非暴力の文化、②持続可能な開発および持続可能なライフスタイル、③異文化学習および文化の多様性と文化遺産の尊重、の三つの柱と重なっており、本校ではこれらを教育活動全体に体系的に位置づけている。

2025年度は、ユネスコスクールとしての活動と、文部科学省 WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築拠点校としての実践を融合させ、「繋ぐ・行動する—“Beyond School”アプローチによる協働型の地球市民教育」を推進した。学校内にとどまらず、大学、海外校、他のユネスコスクール、国際機関と連携し、生徒が社会と直接つながる学びを重ねたことが大きな特徴である。

中学校では、中1「自己探究」、中2「環境探究」、中3「歴史・平和探究」を軸に、探究学習と宿泊研修を連動させた。環境問題や戦争と平和といった抽象的なテーマを、フィールドワークや対話を通して自分事として捉えることで、地球市民としての基礎的な視点を育成した。高校では「総合的な探究の時間」を中心に、生徒自らが問いを立て、調査・分析・提案・発信までを行う学習を展開し、模擬国連や校外発表会など Beyond School 型の実践に挑戦した。

具体的な成果として、第6回ユネスコスクール関東ブロック大会では、本校生徒が主体となり、生物多様性やポストSDGsをテーマとした分科会を主導した。異なる学校や世代の参加者と協働してワークショップを実施し、持続可能な社会に向けた行動を考える場を創出した。また、フランス語授業の成果をポスター発表として共有し、異文化理解と言語学習を結びつけた実践も評価された。

高大連携では、順天堂大学との医療格差をテーマとした授業、東京農業大学との生物多様性保全、法政大学との多様性と包摂性を生かしたビジネス、テンプル大学ジャパンとのジェンダー公平に関する英語ディスカッションなどを実施した。生徒は専門的知見に触れながら、社会課題を多角的に捉える力を養った。さらに、台湾・マレーシアの連携校との相互訪問やオンライン協働、13か国での留学・教育旅行を通して、異文化の中で学び、考え、行動する経験を積んだ。

全国高校生フォーラムや WWL シンポジウム、国連デーの周知活動、TICAD9 関連の模擬アフリカ会議への参加などを通じ、生徒は学んだ知を社会に向けて発信した。2025年度の取り組みは、ネットワークと協働を基盤に、学芸を具体的な社会課題に生かす実践を積み重ねることで、持続可能な未来を創造する地球市民の育成に向けた、ユネスコスクールとしての確かな成果を示すものとなった。

2026年度 ユネスコスクール活動計画(案)

・2026年度はユネスコスクール公式レビュー年度として、有識者による書面レビューや助言を踏まえた改善計画の作成、関連研修への参加を通じて、ネットワークの強化と ESD の一層の推進を図る。

・ユネスコスクールの重点課題を意識した探究的教科学習として、中1「国語探究」、中2「社会探究」、中3「数学探究」、高校「探究・Global Issue Studies(GIS)」を教育課程に位置付け、これまでの成果を活かしながら継続・発展させる。

- ・中3の沖縄平和・環境学習旅行、高2のグローバルスタディツアー（マレーシア、台湾、京都・奈良）を通じ、地球市民、平和、持続可能な開発、異文化理解、文化多様性・文化遺産に関する探究を体験的に深化させる。
- ・海外連携校との協働によるグローバル課題探究をさらに推進し、台湾・Sheng Kung Girls High Schoolとの海洋問題プロジェクトを中心に成果を共有するとともに、他の海外校との協働にも取り組む。
- ・グローバルリーダーズコース設定教科「Global Issue Study」において、英語・フランス語を用いた課題探究を継続し、全国高校生フォーラムへの挑戦と貢献を強化する。
- ・大学との高大連携を一層充実させ、専門的学術リソースを活用した生徒主体・双方向型の連携授業やリサーチプログラムを開拓する。
- ・ 地球市民教育、SDGs探究、異文化学習、文化多様性、文化遺産などに関する探究成果発表の場としての「Global Arts Festival – 文化祭」、「グローバル探究教育・WWL成果発表 Presentation Contest」を継続して実施する。
- ・ カナダ、アメリカ、ニュージーランド、オーストラリア、フランス、ドイツ、アイルランド、イギリス、タイ、マレーシア、台湾など短期から1年留学など様々な海外交流、留学プログラムにより、地球市民教育、異文化学習を一層、促進する。
- ・ 地球市民リーダーの育成を目標とした学年横断型探究課外授業「フロンティア・プロジェクト・チーム」、STEAM教育を先進的に行う課外授業「S-TEAM」を継続実施する。
- ・ 玉川大学を中心として、成蹊大学、東海大学、創価大学、千葉商科大学（関東ASPUvNet加盟大学）と一緒に連携をはかり、特に、8月に千葉商科大学で実施予定の第7回ユネスコスクール関東ブロック大会への参加に向けて、取り組みを進める。

English:

Otsuma Nakano Junior and Senior High School is founded on the educational philosophy of “cultivating scholarship in service of humanity” and upholds the school mission of “educating individuals who, as global citizens, can contribute to the creation of a sustainable and better society in Society 5.0 while also shaping their own well-being.” This mission closely aligns with the three pillars emphasized by UNESCO Associated Schools: (1) global citizenship education and a culture of peace and non-violence, (2) education for sustainable development and sustainable lifestyles, and (3) intercultural learning and respect for cultural diversity and cultural heritage. These pillars are systematically integrated into all aspects of our educational activities.

In the 2025 academic year, our school advanced its initiatives by integrating its work as a UNESCO Associated School with its role as a hub school for MEXT's Worldwide Learning (WWL) Consortium Project. Under the guiding concept of “Connecting and Taking Action: Collaborative Global Citizenship Education through a ‘Beyond School’ Approach,” we promoted learning that extends beyond the school environment. A defining feature of this year was the expansion of partnerships with universities, overseas schools, other UNESCO Associated Schools, and international organizations, enabling students to engage directly with society through authentic learning experiences.

At the junior high school level, inquiry-based learning was structured around Grade 7 Self Inquiry, Grade 8 Environmental Inquiry, and Grade 9 History and Peace Inquiry, closely linked with residential study programs. Through fieldwork and dialogue, students approached abstract themes such as environmental issues and war and peace as

personal and relevant challenges, thereby developing foundational perspectives as global citizens. At the senior high school level, learning centered on the Period for Integrated Inquiry, where students independently formulated questions and carried out research, analysis, proposals, and presentations. Through participation in Model United Nations conferences and off-campus presentations, students actively engaged in Beyond School-based practices.

As a concrete outcome, students from our school took a leading role in facilitating sessions at the 6th UNESCO Associated Schools Kanto Block Conference, focusing on themes such as biodiversity and the post-SDGs agenda. By collaborating with participants from different schools and generations, they designed and conducted workshops that fostered dialogue on actions toward a sustainable society. In addition, students presented the achievements of their French-language studies through poster sessions, demonstrating an effective integration of language learning and intercultural understanding.

Through strengthened secondary-tertiary collaboration, our students participated in specialized programs on global issues, including healthcare disparities with Juntendo University, biodiversity conservation with Tokyo University of Agriculture, diversity- and inclusion-based business models with Hosei University, and English-language discussions on gender equity with Temple University Japan. These opportunities enabled students to engage with academic expertise while developing multidimensional perspectives on social challenges. Furthermore, through reciprocal visits and online collaboration with partner schools in Taiwan and Malaysia, as well as study abroad and educational travel programs in thirteen countries, students gained firsthand experience in learning, thinking, and acting within diverse cultural contexts.

By participating in national high school forums, WWL symposium, United Nations Day awareness activities, and the Model African Union associated with TICAD 9, students actively communicated their learning outcomes to wider audiences. The initiatives undertaken in the 2025 academic year represent tangible achievements as a UNESCO Associated School, grounded in networks and collaboration, and demonstrate a sustained commitment to cultivating global citizens capable of applying their academic learning to real-world challenges in pursuit of a sustainable future.

Plan for 2026

In the 2026 academic year, which will serve as the official UNESCO Associated Schools review year, Otsuma Nakano Junior and Senior High School will strengthen its network and further promote Education for Sustainable Development (ESD) by developing improvement plans based on written reviews and expert feedback, as well as through active participation in related training programs.

Inquiry-based subject learning aligned with the priority themes of UNESCO Associated Schools will continue to be embedded in the curriculum, including Japanese Language Inquiry in Grade 7, Social Studies Inquiry in Grade 8, Mathematics Inquiry in Grade 9, and Inquiry and Global Issue Studies (GIS) at the senior high school level, building on past achievements while further developing these programs.

Through the Grade 9 Okinawa Peace and Environmental Studies Trip and the Grade 11 Global Study Tours to Malaysia, Taiwan, and Kyoto/Nara, students will deepen their experiential inquiry into global citizenship, peace, sustainable development, intercultural understanding, cultural diversity, and cultural heritage.

The school will further promote inquiry-based learning on global issues through collaboration with overseas partner schools, sharing outcomes from the marine environmental project with Sheng Kung Girls High School in Taiwan while

also expanding collaborative initiatives with additional international partner institutions.

Within the Global Leaders Course, the subject Global Issue Study will continue to foster inquiry-based learning conducted in English and French, with enhanced efforts to participate in and contribute to the National High School Student Forum.

Secondary-tertiary collaboration will be further strengthened by utilizing universities' specialized academic resources to implement student-centered, interactive collaborative classes and research programs conducted jointly with university students.

As platforms for disseminating inquiry outcomes, the school will continue to host the Global Arts Festival (School Cultural Festival) and the WWL Presentation Contest for Learning Outcomes.

Global citizenship education and intercultural learning will be promoted through short-term to one-year overseas study abroad programs.

Cross-grade extracurricular inquiry programs, including the Frontier Project Team and the STEAM-focused S-TEAM, will be continued, alongside strengthened collaboration with universities and UNESCO Associated Schools, as well as active participation in the UNESCO Associated Schools Kanto Block Conference to further disseminate student achievements.